NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用した自己表現の可能性

2．学校名

神奈川県星槎学園高等部湘南校

3．実践者名（代表者名）

結城　卓彦

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　24人（3クラスの中の一つ）

6．単元（本時の学習課題）名

小論文を書く、「オバマ大統領とは何か」をメインテーマに小論文を作成する。

7．目標（狙い）

「米大統領就任1週間」という変革の具体化を総括する新聞の切り抜きを提示して、「オバマ大統領」について考え、自分なりに何を書くか、自分なりの表現にどれだけたどり着けるかを把握し、検証する。

8．評価の視点

①大きなテーマに自分なりの切り口と迫り方をしているか。
②小論文の書き方をはじめ、問題意識の醸成をねらいとしたこれまでの学習成果が生かされているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

2学年「国語総合」の中で「言葉の魅力」や「言葉の力」を意識化させるとともに、小論文作成という進路がらみの目的に向けた取り組みのなかで理解力や、思考力の深化を目指す。（全12時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①小論文を書いてみよう、その1。（2時間）
②4コマ漫画を読んで「起承転結」を意識しながら文章にしてみよう。（2時間）
③新聞投書欄を読む。（2時間）
④新聞コラムを読む。（2時間）
⑤「アクロスティック」に挑戦。（2時間）
⑥小論文を書いてみよう、その2。（2時間）
「オバマ大統領とは何か」をテーマに小論文を完成させる。

（留意点）
・小論文と作文の違いを理解するとともに、文章を書く事、第３者に提示する事の抵抗感を軽減する。
・様々な世代の投書を読ませ、同世代の主張が身近な存在である事を知る。また、コラムに着目させる。
・新聞記事はたえず新しいものを提供できるよう、教材の鮮度に配慮する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

○これまでテレビ欄やスポーツ記事が中心だったが、新聞の投書欄や、コラムも覗くようになった。
○首相の交代など時事的な報道にも、各社それぞれ見出しなど工夫しながら書いている事がわかった。
○７種の新聞が目の前にある事によって、テレビやインターネットとの違いを意識するようになった。

12．成果と課題

○新聞の与え方、タイミングを失わないように配慮する事が大切。
○新聞への関心が高まってきたが文字や活字に対する認識はまだまだ不十分だ。
○本校の生徒は、自分の意見、考えを書いたり他者の目に触れる事を出来れば避けたいという傾向がある。今回の取り組みは、その気持ちを振り返り、それぞれが自己を見つめる契機となったが、この営為を着実に持続する事が大切である。新聞を手元に確保していても、テレビやインターネットの誘惑はすぐ隣にある。